



今年一年も何人かのご門徒の皆様がお亡くなりになりました。それぞれにそれぞれの人生を全うされ、お浄土へと還られました。

さて近年では葬儀のほぼ百パーセントが葬儀会館で行われるようになってしまいました。ここ2～30年の間にはすっかり自宅葬は姿を消し、地元のコミュニティセンターを使っただけの葬儀もすっかりなくなってしまいました。かつては「自宅から出してやりたい」という家族の思いが、となり近所の「おたがいさま」の思いに支えられ、共に悲しみを分かち合いながら心のこもった葬儀を執りおこなってきたものでした。

しかし核家族化や高齢化が進み、経済が豊かになるとともに働き手ばかりの社会となり、お金さえあれば葬儀業者に任せただけで、面倒なことも少なく、気づかいもないといったことが主な原因となったのでしょうか、しかもそのほとんどが家族葬、あるいは親族葬となってしまいました。

こうなってしまったことが良いとか悪とかの話ではないのですが、現代社会の人間関係の希薄さが、加速度的に浸透していくことに何とも言えない淋しさを覚えてしまうのです。

道一本挟んでの「死」にも気づかないほどの近所付き合いの希薄さに、「人生」って何だろうと考えさせられてしまうのです。「向こう三軒両隣」は遠い昔の話となってしまいました。

## 1匹を見つめて

我が家の愛犬「クッキー」

取材記事

「JJFF・Oさんのお宅では二匹のポメラニアンが飼われている。そのうちの二匹であるクッキーは17歳の老犬である。このクッキーをこの家に迎え入れてくれたご主人さまの月命日にお伺いすると、盛んに吠えて出迎えてくれる。すっかり足腰は弱ってしまったが、何か自力でゆつくりと歩くこともできる。時々お漏らしをしてしまうので、今ではおむつをさせられている。

人間の年齢でいえばおよそ90歳。今までに何度も病気をし、手術を受けたこともあるのだが、それでもなんとが頑張って生きている。写真を撮る時は男の子らしくシヤンとしてポーズをとってくれた。



今では、ペットは単なる愛玩動物として飼うだけではなく、コンパニオンアニマル(伴侶動物)としてとらえる概念も普及してきているようだ。「この子は家族と同等ですから」という言葉がよく聞かれるが、まさにそのようである。野菜の好きなクッキー。とりわけ胡瓜が大好物とか。Fさん曰く「人間の介護にも、動物の介護にも傾ける思いは一緒ですね」と語ってくれた。年に一度は健康診断を受け、予防接種も受け、家族とともに残された「いのち」を懸命に生きている。その姿は美しかった。

## 報恩講

十二月十三日(日)

九時〇〇分

本年の報恩講はコロナ禍の関係で**午前のみ**のお勤めとなりました。

(換気・消毒には十分心がけています。皆様もマスク着用でご参詣)

いただきますようお願い申し上げます。

当日予定

午前九時

十時十五分～十一時十五分

十一時半

総会終了後

お勤め

法話 S・K氏

門徒総会(役員・地区役員)年行事)のみによる  
 後片付け(総会参加者全員)



# 今月の掲示板

## お知らせ

来年度に向けての行事の変更等のお知らせをします。

**十二月** 同朋会はありませぬ。

金曜喫茶はありませぬ。

除夜の鐘は中止とします。

書道の展示はいたします。

**十二月三十一日～一月十日**

ご参拝いただける準備は調べております。

**一月** 第二土曜の「おぼんを田んぼ」の懇親会は中止といたしますが、

同日の午後一時より本堂にて新年のお勤めをいたします。多くの方のご参拝お待ちしております。

ります。

人並みに仏法を聞いていたら、人並みの仏法しか聞かれん。

人並み外れて聞かなければ、

人並み外れた仏法は

わからんでなあ

松岡 なみさん

## 報徳会執行について

4月14日(水)、15日(木)日予定

来年度の令和3年には、光受寺が当番寺として、お勤めさせていただくことになっております。門徒の皆様方におかれましては昨年度の総会資料、通信等で周知していただいていると思っておりますが、現在のところコロナ禍がどの程度のもものなっているのか予測がつかない状況です。

従いまして、一応実施することを前提として準備を進めていきたいとは思っておりますが、年明けまで様子を見ようと思っております。

皆様方にはご心配をおかけいたしますが、その節にはよろしくご協力いただきますことをお願い申し上げます。

桑名市の真宗大谷派のお寺のご門徒で、仏法を聞くために生まれてきたことを、身をもって生きられた人のようにでした。

かつて光受寺の学習会などで度々紹介いたしました「妙好人」さんと呼びにふさわしい篤信の人のように思われまして。

人並み外れた求道に裏付けられたこの言葉は「なみさん」の人生そのものを言い当てた言葉だと、受け止めさせていただくことができました。

## 新コーナー

十一回連載

樹林

自然は無言で、ありのままの姿を見せてくれています。その姿を通して気づかされてくることも多いのではないかと思われま。

## 懸命に生きる雑草

日本の風土には、春夏秋冬のめぐりがあり、季節の移りを味わえる恵まれた国土です。

身近で目にする雑草も、春と秋委は生命の芽生えと終息を繰り返しています。

秋には春から夏に生い茂る雑草が芽生えます。冬の間地上部には伸びず、地下の根を張りめぐらし、春の生育に備えます。種類はスズメノカタビラ・ハコベ・イヌフグリ・レンゲ・タネツケバナ・ミニナグサなど沢山あります。

春はお彼岸近くになると、夏に生い茂る雑草が一斉に芽生えます。発芽と同時に競い合つように成長して、周囲を覆い尽くします。代表的な種類は、メヒシバ・オイシバ・カタバミ・エノコログサ・カヤリグサ・コシキソウ、など多数です。

季節に適応しながら、与えられた一生を全うするがたには懸命さが感じられ、いとおしさを覚えます。



タネツケバナ



レンゲ



## 自然散歩

7回目



イヌフグリ